

第4回北見市地域公共交通活性化協議会 議事録（概要）

◎日 時	令和元年11月13日（水）午後1時30分～3時45分
◎場 所	北見市役所北2条仮庁舎 3階庁議室
◎出席者	船戸会長、高橋副会長、南保委員、佐藤委員、森川委員、堀井委員、小谷内委員、菅田委員、小林委員、桑原委員、高木委員、岩元委員、久保田委員、橋爪委員（代理）、藤原委員、佐々木委員、高田委員、山田委員、因委員（代理）、田辺委員（代理）、須藤委員、飯塚委員 （計22名） 欠席者： 飯沼委員、松原委員、伊藤委員、 （計3名）
◎事務局	山田次長、三浦課長、田村係長、坂本係長、流水主事、中主事
◎傍聴者	2名

1 開 会

2 議 事

会長 議題（1）地域公共交通網形成計画策定に係る各種調査の中間報告について
事務局より説明。

事務局 各種調査の中間報告について説明《資料1》

- ① パーソントリップ調査分析について
- ② 運転免許自主返納に関するアンケート調査から
- ③ 路線バス利用状況について
- ④ バスICカード非対応路線における乗降調査<調査中>
- ⑤ JR 乗降調査について
- ⑥ 事業者ヒアリング<今後実施>
- ⑦ 目的地別アンケート調査
- ⑧ バス路線沿線住民アンケート調査<調査中>

・・・・・・質疑応答・・・・・・

資料1-② 運転免許自主返納に関するアンケート調査

委員（利用者団体1）

・アンケート結果の補足説明として、「タクシーの料金負担が減れば免許証を返納するか」という設問では、「はい」と答えた方が約42%、「いいえ」と答えた方が「44%」であった。また、バス停が自宅に近くなったり路線バスの便数が増えれば免許証を返納するか」という設問では、「はい」と答えた方が約45%、「いいえ」と答えた方が約39%であった。

委員（警察署）

・課題について、解決ができれば免許返納は進むと考える。先日、高齢者の方が一人で運転し、迷って山奥に行ってしまう救出されることがあった。命に別状はなく良かったが、現状として課題となっている。

資料1-③路線バス利用状況について

資料1-⑤ JR 乗降調査

委員（ハイヤー組合）

・高齢者に対するバス運賃助成施策のため、JR よりバスを利用するため、JR 利用者が少ないという一因もあると思う。 高齢者の乗車証施策については、市が委託費を負担しており、今後の方針について検討が必要だ。

委員（保健福祉部）

・高齢者バス乗車証の施策では、委託費の支出のほかに利用者が負担する発行交付料として、市への収入がある。

資料1-⑦目的地別アンケート調査

委員（利用者団体1）

・川東のパークゴルフ場へ公共交通では行くことができない。高齢者が行きたい施設・場所へのアクセスについて考える必要がある。

（2）公共交通に係る各種情報提供

～事務局より資料2「公共交通に関する情報提供」を説明

・・・・・・質疑応答・・・・・・

委員（運輸支局）

・自家用有償旅客運送について他の自治体で実証実験している登録ドライバーと利用者をマッチングするアプリを使う、集合タクシーなどでは、白タクの温床になっていると言われている。新たな取組みを行う場合は、運輸支局や運送事業者を含めて、このような協議会で十分議論して欲しい。

～オホーツク総合振興局より資料2-1について説明

委員（オホーツク総合振興局）

・振興局では持続可能な交通ネットワークの形成を目指し、新たに連携推進室を設けて取り組んでいる。今年度は、ちびっこフリーパスとして今までバスを利用していない小学生以下の子供対象に、夏休み一部期間中、バスが乗り放題になるパスを販売した。1304名がパスを購入し、北見市では700名の方が利用した。アンケート調査から利用者の約9割の方は、普段バスを利用していない方だった。今後、アンケート結果を分析し、今後の事業展開について検討する。また、網走バスと連携し、路線バスの経路やダイヤなどをオープンデータ化している。オープンデータとすることで、グーグルマップでの検索ができる。

～交通事業者における取組み報告

委員（バス事業者1）

・路線バスのオープンデータ化については、GTFS を活用し、自社で整備を進めている。早ければ年内、遅くとも年度内には公開する予定。
・2003年3月にバスICカードを導入したが、現在新たなキャッシュレス決済が増えており、今後新しい決済方法について実証を含め取組みを進めたい。

委員（バス事業者2）

・バスデータのオープン化については、網走市内の施設めぐり線をグーグルマップを通じて情報公開している。新たな決済方法として、QRコードを活用したキャッシュレスのクラウドペイを活用した決済を検討している。また、一部バス路線についてはバスロケーションシステムを導入しており、来年度には新し

い交通の実証実験も予定している。さらに空港線ではバス車内の wi-fi サービスも実施している。

委員（ハイヤー組合）

- ・ タクシー配車システムを導入し、効率的な配車が出来ている。キャッシュレス決済、アリペイとペイペイを導入した。導入後、約 1 ヶ月で 400 回の利用があり驚いている。また、クレジット決済を導入している会社もある。

（3）北見市における公共交通の課題と計画の方向性について

～事務局より資料 3「公共交通の課題と計画の方向性について」を説明

・ ・ ・ ・ ・ 質疑応答 ・ ・ ・ ・ ・

委員（観光協会）

- ・ 自治区間路線の維持の項目で、JR と路線バスの重複といった課題があるが、先ほども話題に出たが、高齢者の場合、バスは乗車証の利用で費用負担が少なく、JR より、バスを利用するといった実態がある。ダイヤだけではなく料金面の課題についても取り組んだほうがいい。

会長

- ・ 高齢者のバス料金助成施策は福祉など関係部署と相談しながら、今後のあり方について調整したい。路線バスと JR で経路・ダイヤが重複しているところは、日中はバスの利用が多くなっているところもあるかもしれない。

委員（警察署）

- ・ 情報提供の進め方として高齢者に対しては、電子データではなく、紙ベースの周知方法も充実した方が良くと思う。

会長

- ・ 紙ベースでの情報提供についても実施していきたい。

委員（利用者団体 2）

- ・ 同じ意見になるが、最近はスマートフォンを高齢者で使いこなしている方は少ない。紙ベースでの情報提供について重ねてお願いしたい。

委員（ハイヤー組合）

- ・ 留辺蘂で運行するハイヤーは経営が厳しいことから、日曜営業を休止について検討したが、買い物利用者がいるため、やめられない状況である。12 月下旬からは夜間営業を休止し、8 時から 18 時に営業時間を変更する。今後北見市として留辺蘂の公共交通をどのように考えていくのか気になっている。

委員（利用者団体 1）

- ・ 留辺蘂のハイヤーについては、地域住民のこと考え、営業を続けて頂いている。老人クラブ連合会の会員に聞き取りしたところ、タクシーを安く利用したいという意見が多い。チケットの配布など、高齢者がタクシーを使いやすい料金体系の検討をお願いしたい。バス運賃助成施策は、居住している地域で不公平となる。利用者がバス又はタクシー、どちらかを選べるようになるのが良い。

委員（ハイヤー組合）

- ・ 二年前に網走市の取り組み事例として、利用者が（バスやタクシーなどの）運賃助成などを選択できる方法について説明した。高齢者はどんどん年を重ねていくため、スピーディーに進めて欲しい。

会長

バスの助成制度は、福祉の施策として取組みをスタートしたもので、現行制度については 3 年で見直していくこととなっている。次回の見直しのタイミングまで 2 年あるため、今後さまざまな検討をしていくことになると考えている。

委員（ハイヤー組合）

- ・福祉の施策ではなく、当時の市長の公約の実現として取り組んだ施策ではないか。市長の公約事項の実現だと思っている。

会長

- ・当時の市長が行った福祉施策であるが、目的は高齢者の外出機会の増加を目指して行ったものである。高齢者及び福祉の施策として実施している。

委員（ハイヤー組合）

- ・福祉の担当者には、福祉施策としては福祉タクシーがあると説明された。福祉タクシーはあるが、高齢者への助成とは違う話だと思う。

会長

- ・北見市の高齢者に対するバス運賃助成施策については、住んでいる場所等で差があることは理解している。制度設計については、今後福祉関係部局と協議をしていきたい。

副会長

- ・高齢者の議論も大切だが、もう一方で通学利用者である高校生について、定期券の活用や日曜日の移動について、もっと議論が必要。最近の MaaS など、やるべきことだと思うが、全て課題が解決できるという幻想を抱かない方がいい。MaaS はインバウンドや旅行者には有効であるが、地域住民にはそれほど有効な手段ではない。大きな流れとしてはデータをそろえていく事も必要だけれど、それよりどこのルートの利用を伸ばすべきなのかという事やそのバス停の把握など、もっと前にやるべきことがあると思う。

3 その他

事務局 次の協議会開催は、1月中を予定しております。

4 閉会